

平成27年6月23日

地域の知恵と工夫と行動力で九州の未来を拓こう！

～これまでの「九州の未来力2030」の議論を振り返って（中間とりまとめ）～

《はじめに》

九州の経済構造は、その多くを内需産業に依存しており、経済規模は台湾とほぼ同じであるにもかかわらず、外資の導入は台湾に比べて大きく遅れている。一方、九州企業において海外進出を強める動きも活発化しており、中国、韓国、台湾を始めインド、ASEANの存在感は増している。

アジアのダイナミズムを九州に取り込み、同時に人口減少社会に順応していくためには、九州産業のアジア市場に向けたグローバル化とアジア諸都市のモデルとなる安全でコンパクト、快適かつ利便性の高いクオリティ・オブ・ライフの都市作りが必要である。このためには、九州の各都市がアジアの中でのグローバルネットワーク都市として、どのような姿でアジアシフトしていくかという、将来を見据えたオール九州での取り組みが必要である。

このような中、「九州の未来力2030」では、グローバル人材の育成やインバウンドの取込み、農業の基幹産業化、観光推進などの九州を取り巻く環境や課題などを踏まえ、産・学・金・官の各界から自発的・継続的に集まったフリーなメンバーが、相互の問題意識や意見・情報を交差させることによって生まれる新しいアイデアや構想等について意見交換してきたところであり、幅広い分野にわたる自由な議論の場として他にはない会合が出来たと思っている。

また、会合においては、マクロ的・総花的アプローチではなく、ミクロ的・選択的アプローチで、より実現的な議論を行うとともに、会合に参加することで生まれたアイデア等を参加メンバー各自が平素の活動の中で活用、あるいは情報発信して頂くことをお願いしてきたところである。

こうした活動が九州の持つ潜在力を引き出し、未来をデザインする力（未来力）の強化に繋がっていくことを期待したい。

平成25年12月の第1回会合から平成27年2月の第6回会合までの間、「農業」、「インフラ整備」、「観光」、「九州出島化構想」、「女性活躍」などをキーワードとした個別のテーマを取り上げてきた。各回ともメンバーには闊達な意見交換を行って頂き、会合毎に、議論の内容を踏まえ、座長提言として取りまとめてきたところである。

今般、開催から1年を経過したことから、一つの区切りとして、第6回までの開催状況を振り返ってみた。

なお、各回の提言はメンバーの総意を代表するものではないことを付言させていただく。

《これまでの議論の概要》

第1回 未来アジアのモデル地域となるハイクオリティアイランド九州を築こう

第1回会合では、初回でもあり会合の議論のベースにもなる「アジアと九州の構造変化」をテーマに取り上げた。

【座長提言の概要】

➤グローバル人材の育成 ～ 九州出島化構想の実現に向けて～

オール九州で成長するアジアと向き合っていくためには、グローバルな人材の育成に力を入れ、九州にもっと多くのアジア人が来るような魅力的な場所とするための取組みが必要である。そのヒントとして、本多機工(株)の龍造寺社長が提唱している**九州出島化構想**（グローバル人材の育成、アジアとの「人流」の活発化、**魅力あるインフラストラクチャーの整備**などからなる九州経済のグローバル化構想。）は、九州のグローバルネットワーク構築に大きなインパクトを与えることができる。このような民間の力の活用こそが、九州がウィンブルドン化をおそれず、アジアの活力を九州に呼び込むひとつのきっかけになり得ると考えている。

➤地域と企業の自立

今後、九州がアジアの具体的な活力を取り込んでいくためには、地域と企業の自立心こそが原動力となる。東京依存や国頼りの意識改革が必要である。“人流”という観点で、**観光**を捉え直すことや、**農業**を食品産業全体の中で捉えるなど、産業・企業の在り方についてアジア市場を念頭に置いた新たな視点が求められている。

さらに、人口減少、少子高齢化を迎えている現状においては、何をなすにも労働人口の減少と人材の確保という問題を避けて通ることはできない。質の高い人材を確保するために、大学のさらなる国際化を図ることにより、より多くの留学生の受け入れを進めるべきであろう。

質の高い人材という観点からは、男女共同参画社会の構築を民間の力で進めて行く必要がある。**女性**が新しい市場の発見や消費を牽引している事実を目を向けると、九州企業の財・サービス市場を内外に拡大するためには女性の力が不可欠であり、企業は女性の力をどう引き出すかについて、企業組織や人事の在り方にまで踏み込んで意識・発想を転換していくべきであり、また、金融機関には女性企業家の支援をぜひ強化してほしい。

第2回 九州農業の未来を構想する。

第2回会合では、次の時代を担う産業がなかなか育ってきていないのが九州の現状であるが、その中であって、農業は成長余地が非常に大きい分野であることから、農業を食品産業として捉え、「九州農業の6次化展開」をテーマに、(株)グラノ24Kの小役丸代表取締役をお招きし、新たな農業のあり方について議論を行った。

【座長提言の概要】

➤農業担い手の自立が農業を強くする

農業が九州の中核的産業としての地位を獲得していくには、農業者の努力や品質を消費

者にアピールするマーケティング戦略や販路開拓のための6次化展開の推進のほか、「歩留り」の概念を導入し、収穫物すべての収益化による生産性の向上などにより持続的かつ発展的に自立していくことが求められる。

➤農業担い手の自立を新たな展開へつなげる

九州の農業のポテンシャルの高さを考えると、従来と異なった新たな試みに積極的にチャレンジすべきである。具体的には、良いものを輸出のために生産するという発想の転換と、輸出促進のためのブランド化や販路・物流の確保、産地連携による通年ベースでの品揃えの充実など総合的なプランが必要である。

また、九州は農業が生み出す食材と食文化の宝庫であり、欧州のマルシェのように農業を都心においても感じられるような新たなライフスタイルや、「食」を前面に出した九州各地域のブランド化を確立し、アジアへも発信していくべきである。

➤次世代のアグリプレナー（起農家）誕生を期待する

農業に新しいコンセプトを持ち込んだアグリプレナーの登場は、農業を魅力的な産業へと成長させつつあり、今後もこれに続く人材を誕生させるためにも、「リース方式」などの農地権利取得に関連する規制のさらなる緩和や、飛躍的に生産性を高める野菜工場の創出などイノベーションの促進のほか、農業を始めるための営農資金や規模拡大等に応じた設備資金に必要なファイナンスなど、新規参入者を増加させる取組みに期待したい。

第3回 東九州自動車道を徹底活用せよ。成長戦略の視点でPPP/PFIを考える。

第3回会合では、東九州自動車道の開通は、①九州における循環型高速交通体系の確立、②大分における九州と瀬戸内側とを結ぶ「扇の要」としての拠点性向上、③東九州軸における主要都市間の時間距離短縮など、九州の東西格差を解消し、九州経済のポテンシャルを高める可能性があることから、九州経済調査協会の大谷主任研究員をお招きし「東九州自動車道の開通と九州経済」をテーマに取り上げた。加えて、インフラ整備における成長戦略の視点からメンバーの谷口九州大学教授を講師として「九州におけるPPP/PFIの展望と意義」もテーマとし、併せて議論を行った。

【座長提言の概要】

➤東九州自動車道と沿線空港のネットワークを強化し、アジアのゲートウェイを目指す

東九州自動車道の徹底活用により、①北九州市から宮崎県に延びる縦の軸をひとつの経済圏と考え、道路網と空港が連携した物流網の構築、②外国人観光客を本州から東部九州に呼び込む戦略の構築、③縦の経済圏において、「植物工場」の集積地を目指すなどオープンイノベーションによる新産業の育成など、東九州自動車道の可能性を活かす新しい発想で人流・物流を創出していくべきであろう。

さらに、貨物物流に関しては、沿線の各空港を九州のゲートウェイとして羽田空港、那覇空港といったハブ空港との連携も視野に入れれば、東部九州の産物はアジア諸国に短時間で届けられることが可能となるなど、道路という枠を超えた効果を生み出すことが期待できる。

➤アジアのインバウンドニーズに応える

一方で、沿線での開通に向けた準備は十分とは言い難いため、東部九州の将来像を具体的にイメージし、関係する地域が連携してこれをどう実現するかという取組みを早急を開始してほしい。

➤PPP/PFI を九州経済の成長につなげる

東九州自動車道の開通（予定）を契機に、「成長戦略」という視点で、今後の各種インフラや公共施設の整備・管理・運営について、PPP/PFI の活用、特に新たに導入されたコンセッション方式を活用したインフラ等の整備を提案したい。

それには、官（公）による民間の資金力・経営力・ノウハウ等を大胆に活用するための魅力あるスキームの提供が必要であり、パブリック・ガバナンスの改革を期待したい。

➤PPP/PFI を活用するために官（公）の意識改革を進める

PPP/PFI の活用は官と民の対等なパートナーシップにより生まれるが、官と民のイコールフットイングを歪めないよう制度の改善を求めたい。

また、金融機関には資金の出し手としての期待だけでなく、コンセッション方式のような仕組みを九州に定着させる方向で積極的に PPP/PFI 事業に参画することを希望したい。

第4回 観光を九州の基幹産業に！ ～九州観光推進機構のリーダーシップ発揮に期待～

第4回会合では、観光産業が、その裾野の広さと今後のグローバルな市場拡大の見通しから、経済成長や地域経済の活性化に大きな影響を及ぼし得るとして、九州の成長戦略の中の重要産業の一つに位置付けられていることから、「観光を九州の基幹産業に」をテーマに、（一社）九州観光推進機構の石原会長をお招きし、九州観光の今後の展望について議論を行った。

【座長提言の概要】

➤「訪日インバウンド440万人プラン」を進める

～「ONSEN ISLAND KYUSHU」を統一ブランドに～

機構は、2013年に125万人であった九州域内を訪れる外国人数を2023年には440万人まで増加させることを目標に、「Ⅰ.九州のブランドイメージ、Ⅱ.観光インフラの整備、Ⅲ.九州への来訪促進、Ⅳ.来訪者の滞在&消費促進」を骨子とする第二期九州観光戦略を策定し、九州全域での展開を目指している。

特に、「温泉」(Relax&Rejoice ONSEN ISLAND KYUSHU)をブランドイメージとし、「温泉」を入りに各県それぞれの観光素材に広がりを持たせ、九州の一体感を生んだことに大きな意味がある。

アジアに近い九州の利点を生かし、インバウンドを取り込むため、海外の旅行者の様々なニーズ（ユーザー目線）をしっかりと捉え、世界的な口コミサイトなども利用し、積極的に情報発信していく必要がある。

➤九州各地での観光インフラの整備を急げ

LCCや外国クルーズ船の誘致、ビザの発給要件の緩和など、行政（国や県）への働きかけのほか、「無料公衆無線LAN環境（Wi-Fi）の整備」、「コミュニケーション」など外国人旅行者が旅行中に困った身近な問題に早急に対応する必要がある。さらに、自然、食事など四季折々のおもてなしの企画やイベント（ナイトライフを含む）に地域で工夫を凝らすなど、長期滞在者の増加に向け、ハード、ソフト両面からの観光インフラの整備が急がれる。

➤「九州はひとつ」実現のため、九州観光推進機構の強力なリーダーシップに期待する

機構には、第二期九州観光戦略を踏まえ、九州は一つの理念のもと観光を九州の基幹産業に育てるためのリーダーシップの発揮を期待するとともに、地域のひとりひとりが、観光客の受け入れに向けた知恵と工夫を出し合うことが地域の活性化につながるものと考えている。

第5回 グローバル人材の活用で九州の未来を拓こう

第5回会合では、人口減少、少子高齢化を迎えている我が国において、外国人留学生を積極的に採用し、中小企業ながらグローバルな事業展開に成功している(株)本多機工の龍造寺代表取締役社長（メンバー）を講師として、「九州出島化構想」をテーマに企業のグローバル戦略や、九州がグローバル化するためには何が必要かなどについて議論を行った。

【座長提言の概要】

➤100年企業を作るためにグローバル人材の活用を図る

100年企業を目指す(株)本多機工は、人口減少による労働市場の縮小に強い危機感を持つ一方で、九州には多くの優秀な外国人留学生が増えているにもかかわらず、地元企業では多く採用されていないことに着目し、この高度外国人材をうまく活用し、後継者の育成と海外ネットワークの構築を図り、市場の拡大に繋げている。

また、同社は社内での交流を積極的に行い、自社の価値観や業務のプロセスを深く理解した、外国人、日本人を問わないグローバル人材の育成に取り組み、ビジネスの可能性を広げている。こういう企業が増えていくことが、九州経済ひいては日本経済のグローバル化を図っていくために重要である。

➤グローバルニッチトップ企業が考える「九州出島化構想」

龍造寺社長は、高度外国人材を呼び込むために、九州が他のエリアに先駆けて先進的な事例に取り組み、魅力的な島になることによって、九州と国内外との人の流れが出来、海外からも注目を集め、ビジネスチャンスが広がっていくことを期待して、「九州出島化構想」を打ち出している。

同構想では、①中小企業の海外進出時のサポートに加え、進出後における継続的な支援態勢、②国内メディアの内容・表現のグローバル化、③英語教育の低年齢化、④海外の伝統ある大学の九州への誘致やセメスター制（2学期制）の導入、⑤「クールジャパン」を学べる専門学校の創設、⑥高度外国人材への永住権の付与などによる定住化の促進など、

社会全体の国際化の必要性を訴えている。

さらに、⑦地方空港へのLCCの乗り入れやアウトバーンのような高速道路の建設など交通インフラの整備、⑧モスクの情報提供、ハラル版ミシュランガイドの作成、⑨世界に展開しているホテルチェーンとの提携や九州の高級旅館の国際化への転換など、様々な分野におけるグローバルな環境整備を掲げている。

➤九州からグローバル企業を創出しよう

九州が異文化との融合を図り、グローバル化するためには、学校、企業、行政など社会全体の意識を変え、外国人と一緒に勉強したり働いたりすることが、ごく自然に受け入れられる社会になる必要がある。そのためには、同構想は大変示唆に富むものであり、関係者はおおいに参考とすべきである。

そして、何より、企業経営者が常に先を見据え、高度外国人材と日本人従業員を切磋琢磨させつつ、社内の交流・融和を図り、社内全体が未来志向になる、そのような経営の在り方が大事であり、こういう企業が九州から次々と生まれることを強く希望する。

第6回 女性活躍の時代へ ～女性の感性で新たな市場の拡大を！～

第6回会合では、我が国の女性の就業環境が、出産退職後の再就職が非正規雇用となるなど、他の先進諸国と比べて大きく遅れをとっていることから、「女性の感性で新たな市場の拡大を」をテーマに、福岡県男女共同参画センター「あすばる」の村山館長（メンバー）と有ゼムケンサービスの籠田代表取締役をお招きし、女性が社会で活躍するための課題や女性の働く環境等の変化などについて議論を行った。

【座長提言の概要】

➤女性が安心して働き続けられる社会の実現に必要なこと

女性が正規職員として、安心して働くことができる社会となるためには、結婚し、出産、子育てしながらでも働き続けられる環境を作らなければならない。「男女共同参画」はこれまでも社会の課題として提起されてきたが抜本的には解決されておらず、これを打破するためには、企業トップの意識改革による大号令が最も重要である。さらに、全ての男性の意識改革を図り、男性も積極的に育児や家事に参加するとともに、それを支援する社会の雰囲気づくりが重要である。

また、育児・介護等働くことに制約がある人材に活躍してもらうためには、短時間正規社員、在宅勤務など勤務形態の多様化、配偶者転勤同行制度の導入や中途採用の活用など柔軟性のある仕組みや環境の整備が必要である。

➤有限会社ゼムケンサービスの成功事例から学ぶ

女性が少ない建築業において、女性の活用により業績を伸ばしている企業から学ぶ点が多い。資生堂や日産などの大企業と肩を並べ、「女性が輝く先進企業表彰」（内閣府特命担当大臣賞）など数々の賞を受賞している有ゼムケンサービスは、北九州市に所在する中小企業である。

同社では、主婦である建築士やインテリアデザイナー等を採用し、ワークシェアリング

をいち早く実践している。また、ワークライフバランスは「仕事と生活の相乗効果として経営に独自性と高付加価値をつくる」という独自の発想を持ち、聴覚や嗅覚などの女性が得意とする感覚も取り入れた「五感設計」の手法を開発し業績を伸ばしており、同社の更なる飛躍と同様の企業が増えることを期待したい。

➤女性の感性で新たなマーケットを切り拓く

これまで男女共同参画社会の実現については、男性 VS 女性という対立構造の視点で論じられることが多かったが、今後は、男女共生社会の実現に向け、国民の意識改革を図り、雇用制度や育児環境の整備充実などを早急に進め、女性も積極的に社会に進出し、男性とは異なる感性を活かせる社会になることを強く望む。

《まとめ》

これからの九州の経済成長を考えたとき、九州経済をけん引している基幹産業が新技術の開発などに取り組み、競争力を強化させることは重要であるが、この会議で議論してきた農業の6次化推進や観光の基幹産業化など成長戦略の実現に向けた取り組みのほか、人口減少・少子高齢化の中で、持続的な経済成長に欠かせないグローバル人材の育成、活用に加え、女性の活躍による新たな市場の拡大や商品開発など、九州の発展のための新たな取り組みも重要である。

まさに、政府を挙げて取り組んでいる地方創生では、各地域において地方版総合戦略の策定が待ったなしの状況であり、この会議の各回の提言が、その策定にあたっての一助になれば幸いである。

九州は古くから海外との交易が盛んな地域であり、こうした歴史を持つ九州が行政の縦割りや各県の利益誘導に優先されることなく、一つとなって、全域が「日本の出島」、「アジアのゲートウェイ」として国内外から人々が集い、新たな経済成長と雇用を生み出す成長産業が自然と創出するような地域となるため、域内に住む一人一人の知恵と工夫と行動力で、九州の未来が拓かれていくことを真に願う。

「九州の未来力2030」では、これからも九州の発展に寄与できるよう、建設的かつ有用な提言を発信してまいりたい。

九州の未来力2030

座長 森本 廣

「九州の未来力2030」座長提言目次

第1回 「九州の未来力2030」 ～第1回会合を踏まえて～

1. はじめに ～一極集中の三層構造からグローバルネットワーク都市へ～
2. グローバル人材の育成 ～九州出島構想の実現に向けて～
3. 地方と企業の自立

第2回 「九州農業の未来を構想する」

1. 変わりつつある農業
2. 業担い手の自立が農業を強くする
3. 農業の担い手の自立を新たな展開へつなげる
 - (1)「輸出するための生産」への脱皮
 - (2)農業を生活や文化・観光と融合させ、地域ブランド化する
4. 次世代のアグリプレナー誕生を期待する

第3回

I. 東九州自動車道を徹底活用せよ

1. 東九州自動車道がさらに高めるポテンシャル
2. 東九州自動車開通を九州経済の成長につなげる
3. 東九州自動車と沿線空港のネットワークを強化し、アジアのゲートウェイを目指す
4. アジアのインバウンドニーズに応える

II. 「成長戦略」の視点でPPP/PFIを考える

1. PPP/PFIを九州経済の成長につなげる
2. PPP/PFIを活用するための官(公)の意識改革を進める

第4回 観光を九州の基幹産業に育てよう

～九州観光推進機構のリーダーシップ発揮に期待～

1. 観光産業を九州経済の成長戦略として取り組む
2. 「訪日インバウンド440万人プラン」を進める～「ONSEN ISLAND KYUSHU」を統一ブランドに～
3. 九州各地の観光インフラの整備を急げ
4. 九州観光推進機構の更なるリーダーシップの発揮を期待する

第5回 グローバル人材の活用で九州の未来を拓こう

1. 100年企業を作るためにグローバル人材の活用を図る
 - (1)外国人留学生の採用と「のれん分け」ビジネス
 - (2)外国人、日本人を問わないグローバル人材の育成
2. グローバルニッチトップ企業の考える「九州出島化構想」
 - (1)九州の異文化融合の先進地域に
 - (2)九州出島化構想の推進で九州から日本を変える
3. 九州からグローバル企業を創出しよう

第6回 女性活躍の時代へ ～女性の感性で新たな市場の拡大を～

1. 女性が活躍できる社会の実現に向けて
2. 日本社会における現状と課題
3. 女性が安心して働き続けられる社会の実現に必要なこと
 - (1)トップによる大号令
 - (2)男性の意識改革による柔軟な社会づくり
4. 有限会社ゼムケンサービスの成功事例から学ぶ
5. 女性の感性で新たなマーケットを切り開く

(詳細) 福岡財務支局HP <http://fukuoka.mof.go.jp/koho/kyusyunomirairyoku2030.html>